

触媒懇談会ニュース

触媒学会シニア懇談会

退職後の趣味

野尻 直

会社退職後いささか健康を害し、楽しんでいたテニスなどの激しいスポーツが難しくなり新しい趣味を模索しました。その結果下記の二つを新たに始め、現在は生活の一部となっておりますのでご紹介させていただきます。

1. 口笛

数年前に近くの牛久市で日本初の国際口笛大会が開催されました。そこで成人男子の部で堂々第2位になった日本人が現在のわれわれの指導者です。私の知り合いがその大会を聴取し、刺激を受けて口笛同好会を作ろうと決心しその男性に指導をお願いしたところ快諾を得ました。途中の経緯は省きますが私もその話を聞き入会して約3年間口笛を練習しています。同じような年頃の4人が主会員ですが月に2回ほど集まりアンサンブルを楽しんでいます。

小さい頃はよく口笛を吹いたものですが、その後は全く御無沙汰で世の中にも口笛が流行するような動きはありませんでした。しかし口笛を再開してみるとまあ吹けないことはなく、第一大変楽しく気分が良くなります。レパートリーは幅広くクラシック、抒情歌、フォーク、映画音楽、ポップス、最新の歌などにわたります。練習会以外に毎日自宅でも好みの曲や新曲を吹いています。他人に話をしてみると結構興味を持たれ、昔を懐かしんで一緒に吹くという機会も多くなりました。女性も、昔は夜吹くとお嫁に行けなくなるとか、蛇が出てくるなどと言われ我慢していたが本当は口笛が好きという方も多く同好会に参加して貰っています。

実は日本は口笛大国で国際口笛大会では毎回優勝者や入賞者を輩出しています。最近では愛好者も増え、サークルも続々名乗りを上げ、国内でもコンクールが行われています。皆様の中にはテレビで口笛を聞かれた方も多いと思います。You Tubeでも「口笛」で検索しますと多くの奏者の演奏を聞く事ができる状態です。

口笛は身体が楽器であり持ち運び・移動が自由で大変手軽ですし前述のようにコミュニケーションの手段としても好適です。歌とは違い下手でもあまり恥ずかしい感じがしないのは不思議です。

腹、舌、唇を使い腹式呼吸が必須ですので健康にもよく、口の周りが引き締まって若返った表情になるともいわれています。男女とも音域が一緒なのでやや厚みには欠けるくらいはありますが気軽にアンサンブルを楽しめます。

自然の中に出て鳥との会話(?)を楽しむことも出来ますし大きな開放感を味わうことができます。

同好会としては夏には演奏会に出る積りで、今後は老人ホーム等への訪問演奏も考えたいと思っています。

ご興味のある方は是非今後の趣味の一つとして考えられたら如何でしょうか。

2. 俳句

すでに多くの方が楽しんでおられると思いますのでご紹介するまでもないかもしれませんが、経験談は、少しは参考になるかと書かせていただきます。

6年前に市の主催する俳句講習会(2ヶ月)に参加し、終了後、参加者でもっと続

けたいと講師を指導者にお願いし同好会を結成しました。先生は同人で多くの句会を指導しておられ、大変博識で朗らかな方で明るく指導していただいています。メンバーの入れ替わりも1部ありましたが和気あいあいで大変楽しい会です。良い先生に巡り合ったことと、メンバーが俳句に関して同じスタート地点から出発したこと、年配も近いことなどが継続している要因だと思います。

自分にとって良かったことを以下に述べます。

まず自然の良さ奥深さを認識したことです。

俳句には花鳥風月が詠まれることが多く、社会人時代には自然に親しむことが多くなかった私にとって読まれているニュアンスがよく分からないことがありました。特に女性の句には草花の名前が多く勉強が必要でした。草花を見る会やバードウォッチングにも参加しました。たとえば名前も聞いたことのないような鳥が日本には多数生息しており出会うことが感激でした。自然の精妙さを目の当たりにすると時には宇宙には神が存在するような感覚を持たされてしまいます。このように自然をより深く見聞できるようになったことを感謝しています。

次に地域の人たちとの交流です。会社以外の世界に知り合いがなく過ごしてきましたが地域の方、特に女性が多いことで貴重

な経験を得ています。土地の独特な風習、催し、特殊な産物、言葉などを、俳句を通して知ることができます。私の生まれ育った湘南では山と言えば富士山、海と言えば太平洋ですが、現在住んでいる土浦では山は筑波山、うみ（湖）は霞ヶ浦です。俳句は経験を共有していないと理解が十分にできないケースもあり、時代や場所を共有する仲間が多いことは長続きする要因の一つかもしれません。一方、句友の職業経験はバラエティーに富んでおりそちらからも興味深い知識を得ています。年代的には近い人が多い一方、若い人のフレッシュな感覚が入ると良いのだがと贅沢な悩みはありません。

さて肝心の俳句ですが私の成長は遅々としており、また用意ドンでスタートした割には成長に差があるようです。技術者は理屈先行となりがちだと反省していますが、女性の感性にはかないません。また個性を出そうとし過ぎて理解しにくい句を作っている感があります。とは言っても余分なものを削り捨てて感覚をうまく表せた時の喜びは一入ですしそのために推敲を繰り返すことも度々です。しかし自分の成長を測る明確な指標がなく先生並びに句友の評価を大いに頼りにしています。現在は二番煎じにならないようなフレッシュな感覚の句を作ろうとするあまり苦労しているというのが実情です。